

## 年 頭 の 辞

### 昭和 32 年 を 迎 え て

会 長 角 野 尚 徳\*



輝かしき新年を迎えるにあたり、先ずは会員諸賢の御多幸をお祈りすると共に、益々本会の発展に寄与せられんことを御願ひ致します。

本年もわが鉄鋼業は旧年に引つづき明るい発展拡大の道を進むものと期待され御同慶の至りではありますが、ここにわが鉄鋼業の既往を少しく顧みるとともに将来を展望し、あわせて日本原子力産業会議調査団に参加し欧米を視察して参りましたので、その所見の一端をも申し述べて年頭の御挨拶といたしたい。

31年の鉄鋼業の特徴は、第1に鉄鋼生産の拡大を促した大きな原因が国内需要の急激な増大にあつたことである。従来の鉄鋼生産の推移をみると、基幹産業といわれながらも、内需に依存する部分は全体の6～7割に止まり海外景気に直接的に影響される輸出の消長に伴つて生産水準が浮動していた。しかるに31年は年間鋼材生産830万トンにおよぶ飛躍の増産をみたにもかかわらず、内需充足にはなお不足する有様であつた。内需に対する供給量は次表の如く30年に比し約240万トン増である。

	鋼材生産	輸出鋼材	内 需
30年	680万トン	190万トン	490万トン
31年	830万	150万	680万 + 50万トン = 730万トン (輸入鋼材)

かかる内需急増の原因は一昨年来の造船需要に加えて昨年春以降積極的な設備投資需要が活潑化したこと、建築、耐久消費材需要が活況を呈したことによる。第2に鉄源の取得および生産設備面での隘路が顕著化したことで、内需の急増に対応する生産拡大は鉄源および設備の両面における限度に制約せられ、需給緩和対策として本年度間鋼材輸入120万トンの外貨割当すら行われるに至つた。しかしながら国際鉄鋼市況好調の折柄、高値鋼材の輸入はわが国経済にとって甚だ不利益であり、将来の内需旺盛に備えて鉄源確保および設備の拡充は焦眉の急務となつた。第3に鋼材流通市場の組織化が必要になつた。鋼材需給逼迫から鋼材の市中価格は異常に高値を来したがこれが関連産業に与える悪影響を除くため、需給価格の安定化が要請せられるに至つた。

つぎに32年の鉄鋼業の見透しであるが、先ず一般的経済の予測については、昨年来盛んに行われている設備投資に対して、一部では供給過剰を来すとみる向があり、また一部には物価の漸増気構えをも考慮してインフレ懸念の消極説があるが、健全財政政策が本年度も堅持され、インフレ警戒の措置が維持せられる限り経済拡大の基調は不変であろう。ただし、東欧、中東問題を契機として、東西両陣営間には再び冷戦の気運が醸成せられたため、従来の平和共存体制を基盤とする国際経済の長期繁栄見透しに一抹の暗影をみるに至つており、これがため軍需による国際的なインフレ化が予想せられ、わが国国際収支の前途は楽観を許さないが、短期的にはスエズ運河の不通により東南アジア向西欧経済が若干遮断せられるためわが国からの輸出は歓迎されるであろう。しかし長期的にはこれ等東南アジアが西歐向け原材料輸出が杜絶することにより外貨手持ちが縮減し、わが国の輸出伸長には自ら限度が生じ、結局国際競争力の強化が一層要望せられる。

32年の鉄鋼需要についてみれば、内需は昨年と同様の理由からやはり殆んど同じ程度の需要はあるものと予想されよう。むしろ経済拡大のための基礎産業部門の拡充といった意味から、他産業に較べて鉄鋼資材の供給増大は国民経済発展の上から重大な意義が課せられるであろう。輸出については今年は内需充足のために最低限安定市場確保の

\* 八幡製鉄株式会社副社長、八幡製鉄所々長

ためにのみ輸出せられたに止まるが、上述のように今年度の輸出引合は相当旺盛なものと予想されるため、業界の長期的安定市場確保のためには一段と努力する必要がある。

さて本年の鉄鋼業の課題は、まず当面の問題はとして、鋼材流通市場を合理化ないしは組織化することであり、また鉄源の確保に関して、昨年確立されたスクラップの合理化カルテルを今年も堅持するとともに、海外鉄鉱石資源獲得について一層の努力を要する。長期的には設備面の隘路打開のため各企業が実施または着手せんとしつつある合理化計画を早急に完遂させるよう努力することである。

次に諸外国を巡つて思うことは、わが鉄鋼界の設備更新合理化が今なお不徹底の感があることである。上述のように今次の好況で設備および鉄源の不足を露呈したわが国の多くの各企業は遠大な拡張と更新計画をもっているが、この際その実施を急ぐ必要がある。今や世界の製鉄国は一応の復旧更新を了へ、さらに今次の好況に対処する万端の準備に取り組んでいるのである。

戦後各国の復旧更新施設に最も大きい影響力をもつたものは米国の工業力であつて、現在ドイツをはじめ歐洲各国の目新しい設備は日本に見るよう米国的設備が目立ち、その規模の大小こそあれ世界の鉄鋼設備はその形式なり、個々の能力なり、一応水準が定まつたかの感がある。従つて今後の国際競争では、これら設備の活用如何換言すればいかに運営をし、いかにその生産性の向上を図るかにあると思う。また研究面も各国活潑であるが、米国の如き鉄鋼業者自身は専ら新製品に力を注ぎ、品質向上の如きは需要家(加工者)が有力な研究陣をもちそれに鉄鋼業者の謙虚で有能な技術陣の順応の結果であるとさえいわれる位各業界の連絡が緊密であることは、以て他山の石とするに足ると思う。新しい生産方式として数年来我国でも注目を浴びている酸素上吹法と、連続鑄造法は各国で何れも工業的に、実験的に操業せられているが、前者は既に工業的に実施せられ、立派に鉄鋼一貫作業工程の一環として予期の成果をあげている。ただ排煙の取塵に関してはなお研究の余地があるとのことであるが、屑鉄資源の乏しいわが国では近く採用せられて発展するであろう。後者もすでに作業の一環として活用されている実例を見出し愉快に思つたが、操作は簡単ではなく、多量の溶鋼を迅速に処理する作業方法としては疑問があり、従つて一時宣伝せられた分塊工場にとつて代り得るものであるとは今直ちに信じられないが、発展の可能性は充分あると思う。この他にドイツでは上吹転炉に代るべき廻転式精煉炉が研究せられ、近く発表の由でまだその詳細は判らないが、一般に非常な関心をあつめている事実がある。圧延設備には条も板も能うかぎり連続的に量産方式に移行せんとする傾向が著しいが、部分的改良はあつても新しい構想のものはないようだ。強いていえば我国には珍らしいステッケルミルとゼンジミヤープラネタリーである。ゼ式は生産設備としては完成に今一步という批判が強い。一般に加熱炉は圧延能力に影響すること大であるが、注目に値する新しい設計が多々あるようだ。

鉄源対策に関しては、上述した通りこれは特にわが国においては喫緊の重要事項である。なお一言するならば今や何れの国も自国資源のみに依存せず、商業的に技術的に有利なものほどしどしど利用する傾向にあり、事実また自国資源のみに依存し得る国は程度こそ異なるが殆んどないといつても過言でない。従つて国外よりの受入れに最も有利な海岸近くに新工場が建てられる実例を各国に見るのである。目下我国でも鉄石専用船の建造計画が進められ、時宜を得たものであるが、資源の確保に手がうたれて、はじめてその効果が現われよう。

鉄鋼界は熱エネルギーの大消費者である。殊にエネルギー源の乏しいわが国では今日の所謂“人類のつくつた太陽”すなわち原子力に関心を寄せることは当然であろう。しかし原子力の平和利用の面で今日色々研究されているが、最も手近かに利用し得るのは、その莫大な発生熱量を発電用動力源とすることで、これは既に昨年10月英国で商業的に操業せられているのである。この他にアイソトープの利用は既に知られている通りであるが、冶金学分野ではこれは研究や特殊な測定に使用せられ、また原子力はまだ直接熱源として使われず、従つて在来の製造工程に变革をもたらすほどの段階にはいたっていない。米国など原子工業も次第に盛んになって来つつあるが、発電用原子炉建設に要する鋼材量は水力発電の場合と大差ないとのことである。その大部分は特殊鋼であつて使用鋼材の規格などまだ定っていないのでその方面も研究中である。しかしわが国の電力対策は緊急を要するのでこの動力炉は近き将来必ず登場するに違いない。これによつてわが産業界は電力に恵まれ発展が期待されるが、この面からいつても鉄鋼界自体の様相は少からぬ变革をうけること必至であろう。